

水稻・大豆の生育と管理

令和2年7月号
宇佐市農政課

大分県北部振興局集落営農・農地活用第一班

～水稻～



◎雑草対策

雑草発生圃場では、薬剤の使用時期（収穫前日数等）や雑草の葉齢を考慮して早めに処理しましょう。初期の除草剤で雑草を抑えられなかった場合、中後期の除草剤を使用してください。薬剤ごとに適用葉齢、水管理、使用時期が異なるので、ラベル等をよく読んで使用しましょう。

対象雑草	除草剤名	10aあたり使用量		使用時期
		薬量	散布液量	
広葉雑草のみ	バサグラン粒剤	3～4 kg	—	移植後 15～55日 (収穫 60日前まで)
	バサグラン液剤	500～700 ml	70～100 L	移植後 15～55日 (収穫 50日前まで)
イネ科雑草のみ	クリンチャー 1キロ粒剤	1 kg	—	移植後 7日～ノビエ 4葉期 (収穫 30日前まで)
		1.5 kg	—	移植後 25日～ノビエ 5葉期 (収穫 30日前まで)
	クリンチャー EW	100 ml	25～100 L	移植後 20日～ノビエ 6葉期 (収穫 30日前まで)
広葉及び イネ科雑草	クリンチャーバス ME液剤	1000 ml	70～100 L	移植後 15日～ノビエ 5葉期 (収穫 50日前まで)
	ワイドアタック SC	100 ml	100 L	移植後20日～ノビエ6葉期 (収穫 30日前まで)

注意

以下の稲品種には、特定の除草剤が使えません！

「みなちから」「とよめき」「タカナリ」「モミロマン」「やまだわら」「オオナリ」「ミズホチカラ」等

特定の除草剤成分（ベンゾピシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン）で薬害が起き、苗が白化して枯死する場合があります。

上記の品種の除草に、これらの成分を含む除草剤を使用しないよう、ご注意ください。

農研機構のHPで詳細をご確認ください→



◎スクミリングガイ(ジャンボタニシ)対策

耕種的防除

- ・浅水管理 貝が水稻に被害を及ぼすのは田植え後、約3週間までです。その間、水深を出来るだけ浅く保ちます。水深1cm以下が理想ですが、4cm以下に保つと実害があまり出ません。
- ・水路からの侵入防止 水路から2cm以上の貝が大量に侵入する水田では、水口に1～2cmメッシュの金網や網袋を設置すると被害軽減に効果があります。

化学的防除 耕種的な方法ではうまくいかない場合、スクミノンなどの農薬を使用します。

◎間断灌水

活着してから中干しまでは間断灌水が基本で、常時湛水していると有毒な物質を含んだガスが湧き、根傷みします。

田に水をため、自然に落水してから1～2日おいて入水することを繰り返します。

地中深く張る根へ水と酸素を十分に供給することで、根傷みを防ぎ元気な稲に育てましょう。

～大豆～



◎種子消毒

種子消毒は種子伝染性の病害予防等に加えて、生育初期の種子腐敗を抑えて発芽率の確保や発芽を揃える効果があるので、必ず行いましょう。

農薬名	使用量 (種子1kgあたり)	適用病害虫
クルーザーMAXX	8 ml	アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、莖疫病、リゾクトニア根腐病、苗立枯病、紫斑病、黒根腐病、白絹病、ハト
キヒゲンR2フロアブル	20 ml	苗立枯病、紫斑病、タネバエ、ハト

◎播種適期と播種量

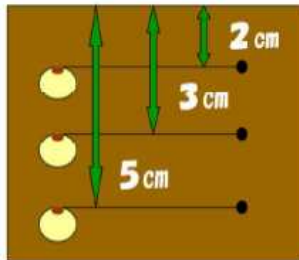
大豆の播種適期は7月1日～7月15日です！

早播きは過繁茂や倒伏、病害虫の増大につながり、7月中旬以降の播種は収量が大きく下がります。播種量は播種時期によって加減してください。

時期	条間×株間	播種量
6月20日～30日	75 cm×28 cm	3 kg/10 a
7月1日～15日(最適期)	75 cm×20 cm	4 kg/10 a
7月16日～25日	75 cm×10 cm	8 kg/10 a

◎播種の深度

播種後の天候を予測して、播種深度を変えましょう。



- ← 播種直後に大雨が降りそうなら 2 cm
- ← 基本は 3 cm
- ← 乾燥が続くそうなら 4～5 cm
鎮圧をしっかり行います

◎雑草防除(初期除草剤)

大豆は初期生育時の雑草防除が重要です。除草剤の使用時期を確認し、必ず散布を行いましょう。

薬剤名	使用時期	10aあたり使用量	
		薬量	希釈水量
ラクサー乳剤	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～800 ml	100 L
クリアターン乳剤	播種直後 (雑草発生前)	500～800 ml	70～100 L
クリアターン細粒剤F	播種直後 (雑草発生前)	4～5 kg	—

☆農作業時の熱中症に注意

喉が渇く前にこまめに水分補給を行う、こまめに涼しい場所で休憩を取る等、熱中症に気をつけて農作業を行いましょう。

☆農作業に伴う道路の泥汚れ防止をお願いします

農地から道路に出る際は、泥や土を落としてから走行していただくようお願いします。